

そう だい やくそく  
総 題 「約束」

だいきゅう か けいやく  
第 9 課 契約のしるし

やまぐちけん た  
山口健太

いち あんそくにち ごご  
1. 安息日午後

あんそくにち わたし ぼしよ ひ もど ぼしよ かみ  
安息日は私たちをあるべき場所に引き戻してくれます。あるべき場所とは、すべてのものは神によってつくられたという事実であり、それは私たちの戻るべき出発点です。

あんそくにち やす きそくただ わたし はじ てんち そうぞう かた かみ ぞく  
安息日は、休むことのない規則正しさで、私たちが「初めに」天地を創造されたお方である神に属していることを思い起こさせます。今週は、シナイの契約の文脈から安息日というしるしについて学びます。

に にちようび きげん  
2. 日曜日：起源

せいしよ みんぞく う いぜん あんそくにち そんざい しめ そうせいきに に さん  
聖書はユダヤ民族が生まれるずっと以前から安息日が存在していたことを示しています。創世記2：2、3と  
しゅつ きにじゅう じゅういち み あんそくにち きげん そうぞうしゅう そうせいきに に さん つか  
出エジプト記20：11を見ると、安息日の起源は創造週にあることがわかります。創世記2：2、3で使  
われている「休まれた」という言葉の原語は、名詞の「安息日」と関係しており、神様が第七日を安息日とし  
て祝福し、聖とされたことは明らかです。

かみさま だいなのか やす りゆう しんがくしゃ かみ きゅうそく かみ とも はい  
神様が第七日に休まれた理由について、神学者のカール・バルトは「神の休息に神と共に入らせるため」と  
しています。安息日を通して神様は私たちを神様との親しい交わりのうちに招いてくださっているのです。

さん げつようび いぜん あんそくにち  
3. 月曜日：シナイ以前の安息日

いぜん あれの あた ものがたり しゅつ きじゅうろくしゅう ちゅういぶか み  
シナイ以前に荒野でイスラエルに与えられたマナの物語である、出エジプト記16章を注意深く見ると、  
しゅ たみ あんそくにち あた とお しんせい しめ じじつ まいにちふ  
主がイスラエルの民に安息日を与え、マナを通してその神聖さを示したということがわかります。事実、毎日降  
っていたマナは安息日には降らず、安息日以外では翌日になると腐っていたマナが、安息日のために6日目に集  
めたマナは腐りませんでした。

よん かようび けいやく  
4. 火曜日：契約のしるし

あんそくにち せいしよ なか よんかい しめ せいしよ あんそくにち  
安息日は、聖書の中で4回、「しるし」として示されています。聖書における「しるし」としての安息日には、  
あるはっきりとしたメッセージを伝えるという意図が含まれています。

じん あんそくにち あがな かんが わたし あんそくにち かみ すく  
ユダヤ人は安息日をメシアによる贖いのしるしと考えていました。そのように私たちも安息日を神の救い  
めぐみ かんが ひつよう ち どれい かみ しゅ  
の恵みのしるしとして考える必要があります。「あなたはかつてエジプトの地で奴隷であったが、あなたの神、主

ちからづよ て の うで みちび だ おぼ  
が力強い手と、伸ばした腕とをもって、そこからあなたを導き出されたことを覚えなければならない。それゆえ、  
あなたのかみ しゅ あんそくにち まも めい しんめいきご じゅうご こうごやく  
あなたの神、主は安息日を守ることを命じられるのである。」(申命記5：15 口語訳)

こ すいようび せいかに  
**5. 水曜日：聖化のしるし**

しゅつ きさんじゅういち じゅうさん あんそくにち ふた がいねん か ちしき  
出エジプト記 3 1：1 3には、安息日の二つの概念について書かれています。「知識のしるし」としての  
あんそくにち せいかに あんそくにち ふた  
安息日、「聖化」のしるしとしての安息日の二つです。

ちしき あんそくにち しゅ し しゅ ただ かんけい はい いみ  
「知識のしるし」としての安息日は、「主を知ること」、すなわち、主と正しい関係に入ることを意味します。  
せいかに あんそくにち しゅ たみ せい せいかに いみ  
「聖化のしるし」としての安息日には、主がその民を「聖」とすることによって「聖化」されることを意味します。  
じゅうさんせつ せいべつ しゅ し ことば あん  
1 3節の「わたしがあなたたちを聖別する主であることを知るためのものである」という言葉があるように、安  
そくにち せい かつ かみ ちしき あた  
息日は、聖なるものとするお方としての神の知識を与えるしるしなのです。  
あんそくにち わたし かみ つく すく おも お あんそくにち わたし かみさま  
安息日ごとに私たちは、神によって創られ、救われたことを思い起こします。安息日は、私たちが神様に  
せいかに けいけん つづ たいせつ やくわり にな  
よる「聖化」を経験し続けるために大切な役割を担っているのです。

ろく もくようび あんそくにち おぼ  
**6. 木曜日：安息日を覚えること**

あんそくにち おぼ かこ おも だ いみ そうぞう  
安息日を覚えるということにはまず、過去のあるものを思い出すという意味があります。すなわちそれは、創造  
のみわざ おも お かみさま わたし とくべつ まじ ひ あんそくにち つく おも  
の御業を思い起こし、さらに神様が私たちとの特別な交わりの日として安息日を作ってくださいましたことを思い  
だ  
出すということです。

わたし あんそくにち おぼ まも せいべつ もと  
さらに、私たちは安息日を「覚える」だけでなく、「守り」、「聖別する」ということが求められています。この  
てん あんそくにち げんざい わたし じゅうよう いみ も  
点において、安息日は現在の私たちにも重要な意味を持ちます。  
あんそくにち ふたたび しゅ こ やくそく み みらい わたし め む あんそくにち おぼ まも ひと  
そして、安息日は再び主が来られる約束に満ちた未来へと私たちの目を向けます。安息日を覚え、守る人  
しゅ かんけい とど ふじん あんそくにち きよ まも わたし しゅ たみ  
は、主との関係に留まるからです。ホワイト夫人は、安息日を聖く守ることによって私たちが主の民であるこ  
しめ い  
とを示すしるしとなると言っています。

なな きんようび けんきゅう  
**7. 金曜日：さらなる研究**

じっかい かみ にんげん にんげんどうし かんけい かた じっかい ちゅうしん あんそくにち いまし  
十戒は神と人間、そして人間同士の関係について語られています。その十戒の中心は安息日の戒めです。  
じっかい あんそくにち いまし かみ そうぞうぬし ゆいいつ かた しゅ しょゆうけん けんい ほんい てん  
十戒における安息日の戒めは、神が創造主であり、唯一のお方であることと、主の所有権と権威の範囲は「天  
ち うみ  
と地と海とそこにあるすべてのもの」におよぶことを示しています。